

記者発表資料

提供年月日 令和元年(2019年)10月15日
部 局 名 文化スポーツ部
所 属 名 文化芸術振興課 振興係
担 当 者 名 西川、林
内 線 3344
電 話 077-528-3344
E - m a i l binoshiga@pref.shiga.lg.jp

令和元年度 滋賀県文化賞等受賞者の決定について

昭和51年から始まり、今回で44回目を迎える滋賀県文化賞等の表彰について、令和最初の受賞者が以下のとおり決定しました。

1 令和元年度 受賞者（別添詳細）

◇文化賞 1人
◇文化功労賞 2人、1団体
◇文化奨励賞 2人、1団体
◇次世代文化賞 2人
計 7人、2団体



2 贈呈式

日 時：令和元年11月1日（金） 午前10時30分から

場 所：滋賀県公館（大津市京町四丁目2-15）

次 第：・表彰楯の贈呈

- ・知事祝辞
- ・受賞者の言葉
- ・記念撮影
- ・懇 談

※贈呈式を取材いただく場合は、当日、受付までお越しく
さい。贈呈式終了後に懇談の時間を設けております。受賞者
の方を取材していただくこともできます。

3 滋賀県文化賞等

【目 的】

県民の文化の向上発展に寄与し、その功績が顕著なものを顕彰することを目的とする。

【対 象 者】

個人：県内に住所、勤務先を有する者または本県出身者。

本県の文化の紹介または振興に顕著な功績のある県外在住者。

団体：県内に事務所または活動の本拠地を置き、安定的に活動していること。

【賞の区分と要件】

◇文化賞

多年（おおむね20年）にわたり優秀な作品を発表するなど文化活動において特に優れた業績をあげた個人または団体

◇文化功労賞

多年（おおむね20年）にわたり文化活動の育成、普及等を通じて県民文化の振興に特に顕著な功績のあった個人または団体

◇文化奨励賞

多年（おおむね10年）にわたり優秀な作品を発表するなど文化活動において優れた業績をあげ、その活動において将来を期待される個人または団体

◇次世代文化賞

国内外の水準の高いコンクールや展覧会等で最優秀賞等の成績を修めるもしくはその活動において将来を一層期待される個人または団体（おおむね19歳以上30歳以下）

【対象部門】

- ・芸術文化部門：美術・文芸・音楽・演劇・舞踊・映像等
- ・郷土文化部門：民話・郷土史・郷土芸能等
- ・その他の部門：学術等

令和元年度 滋賀県文化賞等受賞者

◇滋賀県文化賞

(氏 名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)	(贈呈式)
こばやし まさお 小林 正雄	大津市	72歳	芸術文化（伝統工芸）	本人出席

◇滋賀県文化功労賞

(氏 名・団体名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)	(贈呈式)
おかもと さきこ 岡本 佐紀子	兵庫県	61歳	芸術文化（音楽）	本人出席
たなかみきょうどしりょうかん 田上郷土史料館	大津市	50年	郷土文化（郷土史）	代表者出席
まつやま かつこ 松山 克子	湖南市	75歳	芸術文化（音楽）	本人出席

◇滋賀県文化奨励賞

(氏 名・団体名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)	(贈呈式)
うえだ しんいちろう 上田 慎一郎	東京都 [長浜市出身]	35歳	芸術文化（映像）	代理者出席
こ びわ湖ホール	大津市	9年	芸術文化（音楽）	本人出席
よんだい 四大テノール				
わたらい やすひろ 度會 保浩	甲賀市	38歳	芸術文化（美術）	本人出席

◇滋賀県次世代文化賞

(氏 名)	(現住所)	(年齢等)	(部 門)	(贈呈式)
ほりうち せいら 堀内 星良	大津市 [スイス在住]	23歳	芸術文化（音楽）	代理者出席
やくしがわ ちはる 薬師川 千晴	大津市	30歳	芸術文化（美術）	本人出席

※年齢は令和元年11月1日時点

令和元年度 滋賀県文化賞等受賞者経歴

【 文 化 賞 】

小林 正雄（こばやし まさお） 昭和22年生 大津市

芸術文化（伝統工芸）

15歳で鋳の道を志し、鋳師の父・小林道三に師事。その後、京都の彫金師の藤原平三郎に師事する。全国有数の神社仏閣の金具の制作や文化財の復元を手掛けるほか、茶道具や美術工芸品など、幅広い分野の鋳金具製作を手掛けてきた。プレス製作が多い中で、金属の象嵌、彫金を得意とする日本に数少ない金属加工作家の第一人者である。その技術は全国的にも知られており、最高峰の実力ある職人が集まる伊勢神宮の「式年遷宮」では、鋳金物の制作を手掛けている。これまで数多くの金工作品を制作しており、日本伝統工芸展等で入選歴を持つ。また、鋳金物の制作を行う後継者が不足している中で、若手職人の指導や企画展での実演など、後進の育成にも励んでいる。平成26年に滋賀県知事表彰「おうみの名工」および厚生労働大臣表彰「現代の名工」を受賞し、平成30年には、黄綬褒章を受章した。現在、日本工芸会準会員、滋賀県工芸美術協会会員、（一社）伝統技術伝承者協会会員など

【 文 化 功 労 賞 】

岡本 佐紀子（おかもと さきこ） 昭和33年生 兵庫県

芸術文化（音楽）

びわ湖ホールで上演されるオペラの内、1999年のベルディの「群盗」以降今日まで約20年間、43作品の上演にコレペティトゥアとして貢献。オペラ上演の準備段階で、歌手に対し、ピアノ伴奏や読譜・演唱指導を行うことで、オペラの質を確保してきた。また、びわ湖ホール声楽アンサンブルの伴奏者として、定演を含む大きな演奏会で伴奏を務め、安定した楽曲解釈と卓抜な演奏技術により、演奏の魅力を大きく引き出してきた。その他、びわ湖ホールが行う県内学校への巡回公演にも積極的に参加し、子どもたちに音楽の魅力を伝えている。

田上郷土史料館（たなかみきょうどしりょうかん） 昭和44年設立 大津市

郷土文化（郷土史）

郷土の史料を収集・展示し、郷土の歴史を研究することで、先人の労苦・業績を偲び、郷土愛を育み、教育・文化の向上の一助となることを目的として設立。地域の民俗文化財を収集するだけでなく、企画展の開催や調査研究をまとめた報告書の刊行など、暮らしの変遷を伝える活動を積極的に展開してきた。民具の収集において、紡織用具や着物などの衣生活に関する資料が、製糸から機織り、それによって製作された生地をもとに縫製した衣類に至るまで体系的に収集されており、高く評価されている。平成31年3月には、「田上の衣生活資料」1,358点が国の登録有形民俗文化財に指定された。

松山 克子（まつやま かつこ） 昭和19年生 湖南市

芸術文化（音楽）

石山高等学校音楽科で19年間に渡り、フルート奏者を目指す学生の指導に努めてきた。1982年、“フルートオーケストラ湖笛（うみぶえ）の会”を結成し、世界湖沼環境会議での演奏や国内外でのコンサートなど、滋賀を代表する演奏団体に育て上げた。また「日本フルートコンベンション2011」の滋賀への誘致に成功し、国際的評価を得る。36年前より毎年開催している「日本フルートフェスティバルin滋賀」では、延べ約4300人のプロ・アマ合同の演奏を披露し、フルート演奏者や音楽ファンの裾野開拓に努め、そのステージからは世界に羽ばたく若き演奏家を輩出するなど、後進の育成にも貢献している。

【 文 化 奨 励 賞 】

上田 慎一郎（うえだ しんいちろう） 昭和59年生 東京都

芸術文化（映像）

ENBU ゼミナールのシネマプロジェクトで制作した映画『カメラを止めるな！』において巧みな脚本が評判を呼び、予算 300 万円のインディーズ映画ながら、累計 350 館以上・210 万人以上を動員するなど話題を集めた。同作品は、国内の映画賞を数々受賞しただけでなく、海外の映画祭で招待上演されるなど、国内外で高い評価を得ている。第 73 回毎日映画コンクールや第 28 回東京スポーツ映画大賞で監督賞を受賞したほか、第 42 回日本アカデミー賞において、最優秀編集賞、優秀脚本賞、優秀監督賞、優秀作品賞を受賞するなど、今後ますますの活躍が期待される。

びわ湖ホール四大テノール（びわこほーるよんだいてのーる）

平成 22 年設立 大津市

芸術文化（音楽）

びわ湖ホール声楽アンサンブルで出会った関西随一の实力を持つテノール歌手 4 名のユニット。そのハイレベルな歌唱に加えて、関西ならではの笑いを交えた楽しいステージで話題を呼んでいる。これまでにびわ湖ホールで開催した公演のほとんどが完売となり、兵庫県立芸術文化センター公演でも瞬く間に 3,500 名を動員するなど、県内外で人気を誇っている。全国から公演依頼が相次ぎ、彼らの活躍を通じて、びわ湖ホールや声楽アンサンブルの認知度を向上させることにもつながっている。平成 28 年、リオ五輪のメダリストらと共に「関西元気文化圏賞ニューパワー賞」を受賞。

度會 保浩（わたらい やすひろ） 昭和56年生 甲賀市

芸術文化（美術）

工芸の分野を出発点に、美術と工芸の狭間を探りながら制作をしている。古典的なステンドグラスの技法を用いた立体作品が中心であり、海外の美術館に収蔵されるなど、高い評価を受けている。実験器具など実用的なものをモチーフとしながらその機能を消失させた「0ml」シリーズでは、確かな陶芸技術による造形美とこれまでにないかたちで、見るものにあらゆる問いを想起させた。大阪芸術大学の修士課程を修了後、滋賀県立陶芸の森にてアーティスト・イン・レジデンスを行う。これまでに国内外の展覧会で作品を発表しており、今後益々の活躍が期待できる。

【 次 世 代 文 化 賞 】

堀内 星良（ほりうち せいら） 平成8年生 大津市

芸術文化（音楽）

県立石山高校音楽科を経て、東京藝術大学音楽学部器楽科を首席で卒業。在学時に安宅賞を、卒業時にアカンサス音楽賞、三菱地所賞を受賞。国内コンクールに於いて第一位等多数受賞。平成27年に滋賀県芸術文化祭奨励賞を、28年に平和堂財団音楽部門芸術奨励賞を受賞。ミュージック・アカデミーinみやざき2018にて優秀賞を受賞し、宮崎国際音楽祭に出演。広上淳一氏、高関健氏指揮で藝大フィルとも共演。卒業後、スイスに留学し、今春ブリュッセルで開催されたレオニードコーガン国際コンクールで第1位を受賞する等、今後益々の活躍が期待される。公益財団法人平和堂財団海外留学助成者。

薬師川 千晴（やくしがわ ちはる） 平成元年生 大津市

芸術文化（美術）

一つのものを二つに分けるなど「対」の関係性を軸に、平面性と立体性の双方を見据えながら独自の絵画を制作している。絵の具の置かれた支持体を二つ折にして転写し、対称のイメージを描き出すデカルコマニー技法を用いた作品には、逃れ得ないイメージの共通性と同時に、決定的な相違性が混在している。在学中よりグループ展などに出品を重ね、平成 26 年に開催した個展『絵画碑』以降、個展『絵画に捧げる引力』の開催や『ハイパートニックエイジ』への出品など着実に活動を展開している。音楽やデジタル技術などの他分野とのコラボレーションも積極的に行っており、今後さらなる活躍が期待される。